

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準 1	理念・目的
------	-------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

☑ 課題事項	☑ ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0102	学生便覧や学部パンフレット、学部ホームページにおける教育研究上の目的や人間像の記述に認められる齟齬を解消する必要がある。大学入学案内や受験産業の教育情報サイトについても同様に対処する必要がある。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
上記課題および留意点は2020年度の自己点検・評価で記述されたものである [0102a p.2] [0102b p.1]。当時の学生便覧や学部パンフレット、学部ホームページを見ると、例えば学生便覧では「21世紀のバイオ産業すなわち生物の機能を応用して人間生活に有用な物質生産や自然環境保全および食育環境の向上を目的とする産業および民政部門で活躍する職業人を育成する」としているが、学部のホームページでは「21世紀のバイオを担う幅広い人材の育成」、パンフレットでは「バイオ産業、環境ビジネス、食品産業などの分野で活躍できる職業人を育成します」と記述していた [0102c p.250]。その後の検討により、学生便覧や大学ウェブサイトの情報公表のような正確さを求められる媒体においては表現を統一すべきであるが、受験生や一般の方々に見て頂きたい媒体においては、一見しただけでより深く内容を知りたくするような工夫が必要なため、字句的に齟齬があるものの、意味するところにおいて齟齬がない程度の表現であれば許容とすることとした [0102d p.3] [0102e]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0101	【新学科・新専攻設置時のみ】 大学の基本理念・使命・教育目的を適切に設定していますか。また、それを踏まえ、学部・研究科の教育研究上の目的を適切に設定していますか。	自己評価
評価の視点	(2)学部（学科）・研究科（専攻）の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものですか。 (3)学部（学科）・研究科（専攻）の育成する人間像は、明確ですか。 (4)学部（学科）・研究科（専攻）の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的は、関連性がありますか。		
現状説明	新学科設置なし		

自己点検・評価項目	0102	大学の基本理念・使命・教育目的および学部・研究科の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体(例えば学生便覧やWebサイトなど)間の記述の統一 (2)刊行物、Webサイト等により大学の基本理念・使命・教育目的、学部・研究科の教育研究上の目的等を周知・公表していますか。 ・学生・教職員への周知 ・社会に対しての公表			
現状説明				
2020年度に自己点検・評価を行った時点では、学生便覧と大学ウェブサイトなど媒体の違いにより字句的に齟齬がある状態であったが、現在は学生便覧と大学ウェブサイトの情報公表のような正確さを求められる媒体においては表現を統一している[0102c p.2]。一方、受験生や一般の方々に見て頂きたい媒体においては、一見しただけでより深く内容を知りたくなるような工夫が必要なため、字句的に齟齬があるものの、意味するところにおいて齟齬がない程度の表現であれば許容とすることとした[0102d p.3][0102e]。なお、それらの内容については、毎年各媒体の関係部署から学部長や学科・専攻主任に確認依頼があるため、その都度、学部長や学科・専攻主任から担当者に依頼し、適宜見直しをしている[0102f]。なお、上記コンセンサスは教授会などの議事録に明文化されておらず、根拠資料を見出せないことが今回明らかとなった。数年経過すると多くの担当者が代わり、認知されていないままになっていることが懸念される。この機会に会議資料に明記し、担当者が代わっても引き継がれるようにする予定である。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0102	「教育研究上の目的」の内容については、毎年各媒体の関係部署から学部長や学科・専攻主任に確認依頼があるため、その都度、学部長や学科・専攻主任から担当者に依頼し、適宜見直しをしている[0102f]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み(予定)および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0102	学生便覧と大学ウェブサイトの情報公表のような正確さを求められる媒体においては「教育研究上の目的」の表現を統一し、受験生や一般の方々に見て頂きたい媒体においては、一見しただけでより深く内容を知りたくなるような工夫が必要なため、意味するところにおいて齟齬がない程度の表現であれば許容とする。このコンセンサスがどこにも明文化されていないため、担当者の交代により、認知されなくなることが懸念される。
今後の改善・向上方策	
この自己点検・評価の機会に会議資料に上記コンセンサスを明記し、担当者が代わっても引き継がれるようにする。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023 年度 自己点検・評価シート

自己評価組織 応用生物学部

基準 2 内部質保証

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0203	学部内内部質保証システムにおける年間スケジュールの実践。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学部内における内部質保証システムを有効なものとするために、2019 年度までに決定した年間スケジュールに沿って、2020 年度から 2022 年度まで自己点検・評価を行い、このうち 2020 年度にはピアレビュー受審を実施した[0102a, 0102b, 0203a]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0203	方針および手続きに基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。	自己評価	A
評価の視点	(5)外部評価を自己点検・評価に取り入れていますか。 ・学内のピアレビューは含まない			
現状説明	2019 年度に設定した学部内の内部質保証システムにおける年間スケジュールに従って、2020 年度に大学による自己点検・評価の詳細点検（2018～2019 年度）をピアレビュー受審も含めて実施した[0102a, 0102b]。さらに同年、大学基準協会による認証評価も受審した[0203c]。2021 年度と 2022 年度には大学による自己点検・評価の年度点検を実施した[0203a, 0203b]。内部質保証システムをシステムティックに運用できる体制がある程度整えられたため、以前よりもスムーズに自己点検・評価が実施されたと考えられる。一方、年度によって自己点検・評価の実施項目が異なるなど、それに応じた体制を整える必要があることが判明した。そのため 2022 年度には、これまでの大学による自己点検・評価の実践状況を踏まえて自己点検・評価実施体制を見直し、各評価項目について主担当者を決めて、より具体的な実施計画案を策定し[0203d pp.8, 17]、内部質保証システムを効率的に維持できるよう体制を整えた。			

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0203	内部質保証システムを有効に機能させるため、年間スケジュールをより現実的なものに改善した。
項目 No. 0203	年間スケジュール実践のために、自己点検・評価の各項目の主担当者を決定した。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0203	学部内内部質保証体制による年間スケジュールの実践と検証
今後の改善・向上方策	
評価対象年度毎に学部内の内部質保証体制を見直し、より現実に応じた年間スケジュールを作成、実践し、効率的に運用されているかどうかを検証する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準 4 教育課程・学習成果 (1)

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0403	学生による授業評価において、必ずしも 100%の回答が得られていない。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
<p>上記課題については 2020 年度の自己点検・評価（詳細点検）で認識したものの、対象年度である 2019 年度の「学生による授業評価回答率」を見ると、応用生物学部の学生回答率は春学期が 33.8%、秋学期が 24.1%となっており、全学平均の回答率（春 31.5%；秋 24.4%）と比較すると平均的な値であった [0403a] [0403b] [0403c]。このことから、当時のピアレビューでは本件は留意点として指摘されなかった [0403d]。ゆえに、応用生物学部教務委員会としては本課題に対しては組織的な対策を取らなかった。しかし、2022 年度の学生回答率は春学期が 43.8%、秋学期が 35.0%となっており、2019 年度から 10%程度上昇していることに加え、全学平均の回答率（春 38.5%；秋 25.0%）と比較しても高い回答率であった [0403c] [0403d]。2020 年度の自己点検・評価で自ら課題事項に挙げたことから、教員達の意識が向上した結果と考えられる。</p>	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0401	授与する学位ごとに、学位授与の方針（DP）を定めて、公表していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)授与する学位ごとに、当該学位にふさわしい学習成果（課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等）を明示した DP を適切に設定していますか。 (2)授与する学位ごとに、DP を社会に対して公表していますか。			
現状説明				
学位授与の方針(DP)はそれぞれの学科・専攻ごとに検討され、学部長を含む主任会にて検討されたのち、教授会にて教員の賛同を得たうえで大学ホームページにて公開している[0401a, b, c, d, e]。				

自己点検・評価項目	0402	授与する学位ごとに、教育課程編成・実施の方針（CP）を定めて、公表していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)授与する学位ごとに、教育課程の体系、教育内容を備えた CP を設定していますか。 (2)授与する学位ごとに、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えた CP を設定していますか。 (3)授与する学位ごとに、CP を社会に対して公表していますか。 (4)CP と DP の関連性は適切ですか。 ・CP と DP の整合性			
現状説明				

教育課程編成・実施の方針（CP）も学位授与の方針（DP）と同様に検討され、大学ホームページにて公開している[0401a]。CPとDPの整合性も主に主任会にて検討されている。

自己点検・評価項目	0403	教育課程編成・実施の方針（CP）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1)CPと教育課程の整合性はとれていますか。</p> <p>(2)教育課程の編成にあたっての順次性および体系性への配慮をしていますか。（ナンバリング、カリキュラムマップ）</p> <p>(3)単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしていますか。 ・授業科目の性質、授業時間外に必要な学習を考慮した単位数の設定</p> <p>(4)個々の授業科目の内容および方法は適していますか。</p> <p>(5)授業科目の位置づけ（必修、選択等）は適切ですか。</p> <p>(6)各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 【学士課程】 ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 【修士課程、博士課程】 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等</p> <p>(7)学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。</p>			
現状説明				
<p>教育課程編成・実施の方針（CP）に合致した授業科目を開設し、教育を実施している。その順次性や体系性を理解しやすくするために、ナンバリングおよびカリキュラムマップを作成した[0403e, f, g, h]。個々の授業科目の内容および方法がCPに適合したものであることを、教務委員会・教員同士で点検している[0403i, j]。 大学から科目の精選を要求されており、学位課程にふさわしい教育課程の編成を維持しながらどのように対応すべきか検討する必要がある[0403k]。</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0403	個々の授業科目の内容および方法がCPに適合したものであることを、教務委員会・教員同士で点検している[0403i, j]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0403	大学から科目の精選を要求されており、学位課程にふさわしい教育課程の編成を維持しながらどのように対応すべきか検討する必要がある[0403k]。
今後の改善・向上方策	
学部教務委員会で科目の精選について継続的に検討し、授業編成の時期までに科目精選の余地があるかについて結論を出す。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
0401,0402 学位授与の方針（DP）と教育課程編成・実施の方針（CP）はいずれも学部内で検討した上で大学ホームページにて公開されている[0401a]。DP と CP の整合性は、主に主任会で丁寧に検討されている [0203d pp. 17] ことが追加資料及びヒアリングで確認できた [0402a] [0402b] [0402c] [0402d] 。 0403 ・教育課程編成・実施の方針（CP）に合致した授業科目を開設し、教育を実施している。その順次性や体系性を理解しやすくするために、ナンバリングおよびカリキュラムマップが作成されている [0403e, f, g, h]。カリキュラムマップは学科間でデザインに統一性があり、学部で連携して作成されていることが伺われる。 ・授業内容と方法の CP 適合性について、教務委員会・教員同士で点検され [0403i, j]、また 4 年次の卒業研究のルーブリック検討を中心として、個々の授業科目の内容および方法が CP に適合したものであるかの検討が行われていることが追加資料及びヒアリングを通じて説明された [0403l, m, n, o, p]。
長所・特色
0403 教育課程編成・実施の方針（CP）に合致した授業科目を開設し、その順次性や体系性を理解しやすくするために、ナンバリングおよびカリキュラムマップが作成されている [0403e, f, g, h]。カリキュラムマップは学科間でデザインに統一性があり、学部で連携して作成されていることが伺われる。
留意点 *各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
0402	a	応用生物学部 0402a：FR ディプロマ・ポリシー	○
0402	b	応用生物学部 0402b：FR カリキュラム・ポリシー	○
0402	c	応用生物学部 0402c：FR カリキュラムマップ	○
0402	d	応用生物学部 0402d：FR カリキュラムツリー	○
0403	l	応用生物学部 0403l：CP メール審議 1	●
0403	m	応用生物学部 0403m：CP メール審議 2	●
0403	n	応用生物学部 0403n：CP メール審議 3	●
0403	o	応用生物学部 0403o：DP メール審議 1	●
0403	p	応用生物学部 0403p：DP メール審議 2	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準 4 教育課程・学習成果 (2)

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0405	成績評価および単位認定方法の客観性・公平性・厳格性の評価方法の検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
引き続き学部内に設置された学部教務委員会が定期的開催され、効果的な教育を行うための措置が講じられている [0405a]。 具体的には、「中部大学におけるシラバスの第三者点検実施要項」に基づくシラバスの第三者点検を実施するなど、効果的な学修実現に向けた措置が組織的に執られている [0403j]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。	自己評価	A	
評価の視点	(1)【学部のみ】各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、1年間または学期ごとの履修登録単位数の上限設定等の措置を講じていますか。 (2)シラバスに次の内容を組み込んでいますか。また、授業はシラバスどおりに行われていますか。 ・授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・授業内容とシラバスとの整合性の確保 (3)授業計画や成績評価の方法を変更した際、学生への周知を適切に行っていますか。 ・授業内容・方法の変更等に伴う対応 (4)学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法を講じていますか。 ・教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保 ・グループ活動の活用 (5)学生の理解度、学習の進捗を適切に確認、把握していますか。 (6)課題の量・質、フィードバックの方法は適切ですか。 (7)授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。 【学士課程】 ・授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。				

	<ul style="list-style-type: none"> ・履修指導は適切に実施していますか。 <p>【修士課程、博士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究指導計画（研究指導の内容および方法、年間スケジュール）を明示していますか。また計画に基づく研究指導を行うように取り組んでいますか。
現状説明	
<p>各学期における履修単位の上限を設定し、全学生に周知している [0404a pp. 272, 281, 290]。 授業の目的や達成目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、講義前後の自主学習の指示、成績評価方法および基準については、シラバス内で明示している [0404b]。 授業内容とシラバスとの整合性は、学期終了時における学生アンケートおよび教員自身による当該アンケートへの回答により毎年振り返りが行われるとともに、教員自身による年末でのシラバス修正の機会が組織的に与えられている [0404c] [0404d]。 学生の主体的参加を促すため、講義内でのグループワークや発言の場を設けている [0404e]。 履修に関しては、毎学期のオリエンテーション時に担任等による指導と相談の機会が設けられている [0404f]。 各学科・専攻において教務委員を選出し、各学科・専攻からのシラバスをはじめとする教務事項について検討された結果を持ち寄って学部教務委員会が概ね毎月開催されている [0403j]。 各学部等から提出された教務事項、および教務部から各学部等に依頼した事項については、概ね毎月開催され、学部代表者が出席する教務委員会 [0404g] で検討されている。</p>	

自己点検・評価項目	0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> (1)シラバスに掲げている「達成目標」に基づき、成績評価がなされていますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価 (3)成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認していますか。 (6)学位論文審査がある場合、学位論文審査基準が明確に示され、かつ公表されていますか。 (7)学位審査および修了認定の客観性および厳格性を確保するために、評価の基準、評価のレベルを示したルーブリックを用いた評価がなされていますか。 (8)学位授与に係る責任体制および手続きは明確に示されていますか。 (9)適切な学位授与を行っていますか。 			
現状説明				
<p>2021年度第3回学部教務委員会において、「卒業研究の評価に関するルーブリック案」の作成状況が報告され、その運用なども含めた各学科専攻での話し合いを継続することとなった[0405b]。その後、各学科、専攻の卒業研究用ルーブリックを作成し、2022年度から施行することとなった[0405c]。今後、適切に運用できているかの点検を行い、PDCA サイクルを回してゆく予定である。</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0404	各学科・専攻において教務委員を選出し、各学科・専攻からのシラバスをはじめとする教務事項について検討された結果を持ち寄って学部教務委員会が概ね毎月開催されている [0405a]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0405	各学科、専攻の卒業研究用ルーブリックを作成し、2022年度から施行することとなった[0405c]。

今後、適切に運用できているかの点検を行い、PDCA サイクルを回してゆく予定である。
今後の改善・向上方策
卒業研究用ルーブリックの導入については、学生指導や評価の点でいくつかの懸念が想定され、運用までに2年間を要した。2023年度からの運用において、どのような課題点が見出されたか点検・評価し、改善への取り組みを組織的に推進する予定である。

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
0404 学生の履修に関しては、各学期における履修単位の上限を設定し、全学生に周知している [0404a pp. 272, 281, 290]。 0404 授業の目的や達成目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、講義前後の自主学習の指示、成績評価方法および基準については、シラバス内で明示している [0404b]。さらに、授業内容とシラバスとの整合性は、学期終了時における学生アンケートおよび教員自身による当該アンケートへの回答により毎年振り返りが行われるとともに、教員自身による年末でのシラバス修正の機会が組織的に与えられている [0404c] [0404d]。 0405 各学科、専攻の卒業研究用ルーブリックを作成し、2022年度から施行している[0405c]。
長所・特色
0404 シラバスと授業内容との整合性は、シラバスの修正機会が設けられており、長所といえる。
留意点
*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0405 ルーブリックの運用にあたり、課題点を点検・評価し、改善する必要がある。[B]

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
		追加資料なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準 4 教育課程・学習成果 (3)

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0407	発達障がい等の学生に対する対応の強化が必要である。(2022年度のシート記述から)
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
応用生物学部教務委員会で障害を持つ（疑いのある）学生に対する対応を学部全体として対応することとし、学生相談室での動画と小冊子を活用して、教員に周知を図ることとした。ただし障害を持つ学生についての組織内での情報共有については、難しい面があることから状況をみながら対応することとした[0407a]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0406	学位授与の方針（DP）に明示した学生の学習成果を IR データも踏まえて適切に把握し、評価していますか。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1)学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。</p> <p>(2)【学部のみ】成績分布、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果に関する情報の把握と共有 <p>(3)学習成果を把握・評価するために、以下の方法を用いて改善・向上に取り組んでいますか。</p> <p>≪学習成果の測定方法例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・テスト（GPS-Academic） ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査（学びに関する調査 等） ・卒業生、就職先への意見聴取 			
現状説明	<p>学部教務委員会で卒業研究のルーブリックを学科、専攻ごとに作成し、2022年度から試行することとした[0405c]。春学期の各学科専攻会議にて、作成した卒業研究に関するルーブリックに基づいた評価を試行することを確認し、評価を実施した[0406a]。</p> <p>卒業研究の成績提出後に各学科専攻会議にて、卒業研究に関するルーブリックに基づいた評価を試行結果について学科専攻内で振り返りを行った[0406b]。</p>			

自己点検・評価項目	0407	教育課程およびその内容、方法の適切性について、学位授与の方針（DP）、教育課程編成・実施の方針（CP）に基づき、IR データも活用して定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 (2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
GPA 制度を活用し、学生の成績、学習成果を確認している[0407b]。各学生の成績、進級や学習状況は、講義や実験実習の状況、学年指導教授からの情報を学科専攻会議で共有している[0407c]。 応用生物学部教務委員会で SDGs 学際専攻対応について情報を共有しながら科目選定やオンディマンド講義について議論し改善・向上に取り組んだ[0407d]。 また、これまでの自己点検・評価より「学びに関する調査」の活用の必要性が認識されたことから、応用生物学部の学生の傾向と学部教育の結果として年次ごとの変化の傾向を分析した[0407e]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0406	卒業研究に関するルーブリックに基づいた評価を試行し、教員間で試行結果を話し合った。
項目 No. 0407	各学生の成績、進級や学習状況を学科専攻会議で情報共有している。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0406	卒業研究に関するルーブリックに基づいた評価内容や項目を再度確認する。
今後の改善・向上方策	
卒業研究に関するルーブリックに基づいた評価の内容について、持続的に活用に向けた議論を開始する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0407	学習成果の測定を目的とした学生調査の活用
今後の改善・向上方策	
2022 年度に初めて「学びに関する調査」の結果を解析し、学生達の理解度や満足度、進路に関する意識の動向を知ることができた。今回の経験をもとに改善計画を立てて実践することが 2023 年度以降の課題となる。今後も継続して解析を進め、PDCA サイクルを回していく。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評

0406 学部教務委員会で卒業研究のルーブリックを学科、専攻ごとに作成し、2022 年度から試行することとし [0405c]、卒業研究の成績提出後に各学科専攻会議にて、卒業研究に関するルーブリックに基づいた評価の試行結果について学科専攻内で振り返りを行っている[0406b]。このように実際にルーブリックを試行し、その結果を振り返っている活用方法は評価できる。
0407 GPA 制度を活用し、学生の成績、学習成果を確認しており[0407b]、各学生の成績、進級や学習状況は、講義や実験実習の状況、学年指導教授からの情報を学科専攻会議で共有している等[0407c]、適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を行っているといえる。また各学生の成績、進級や学習状況を学科専攻会議で情報共有している根拠資料として「2022 年度第 7 回食品栄養科学専攻 専攻会議議事録」が追加された。ただし、「各学生の成績、進級や学習状況を学科専攻会議で情報共有している。」との記載は「2. 長所・特色」にあったが、本来これは[0406]の現状説明（評価の視点（2））に追記すべきであった。
長所・特色
0407 応用生物学部教務委員会で SDGs 学際専攻対応について情報を共有しながら科目選定やオンデマンド講義について議論し改善・向上に取り組んでおり[0407d]、新しい取り組みへの積極的な行動は評価できる。
留意点
*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0406 卒業研究のルーブリックの活用は 2022 年度から始まっており[0405c]、課題等が今後明らかになる可能性がある。そのためルーブリックの改善や活用に向けた議論を継続していただきたい。【B】

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
0407	f	2022 年度第 7 回食品栄養科学専攻 専攻会議議事録	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023 年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準 5	学生の受け入れ
------	---------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0504	管理栄養科学専攻が定員割れを生じる結果となり、適正な定員確保に至る方策が求められる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
0504 2021 年度は愛知県内 7 校の農業・食品系専門系高等学校へ教員が訪問し、学部学科専攻の特徴を説明し進学希望者を募った。特に、食品栄養科学科管理栄養科学専攻の指定校枠の働きかけを行った [0504a pp. 15, 17, 19, 21]。	
0504 2022 年度の大学ホームページリニューアルに伴い学科紹介動画を新たに作製し、高校生への学科の見える化を図った [0504b]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0504	学部全体として定員の 1.1 倍超過となり、適正な定員確保に至る方策が求められる
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
0504 2022 年度の学部 1 年生全体の在籍者数は定員の 1.14 倍超過であり、これはコロナ禍の受験生の歩留まりに変化が見られたことが原因であると分析し、2023 年度の動向を注視しなければならない。しかしながら、2022 年度学部全体の在籍者数の比率は、1.00 倍であった[0503b]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0501	入学者受入れの方針(AP) を定めて、公表していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)学位授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)を踏まえた方針となっていますか。 (3)【新学科・新専攻設置時のみ】社会に対し公表していますか。 (4)下記を踏まえた AP を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法			
現状説明				

0501 (1)AP はDP 及び CP を踏まえており、その旨が AP に明記している [0501a]。
 0501 (4)入学前の学習歴や学力等及び求める水準を含んだ記述となっており、更に各学科・専攻の AP では求める人間像の水準等に対応する入試選抜方法を明示している [0502a]。

自己点検・評価項目	0502	入学者受入れの方針(AP)に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)AP と入試形態は整合していますか。 ・求める学生像と入試形態との整合性 (2)AP に基づき、大学教育を受けるための能力・適性等を判定できる入学者選抜の方法を採用していますか。 ・教育課程編成・実施の方針 (CP) との関連性			
現状説明				
0502 (1)各学科・専攻の AP では求める人間像を規定する水準等に整合する入試選抜方法を明示した [0502a]。 0502 (2)教育課程の編成・実施の方針 (CP) を踏まえて AP を定め、この AP に則した学生募集内容・入学者選抜方法をとっている。また、受験生サイトにて選抜試験ごとの募集人員、志願者数、受験者数、合格者数、倍率等を公表して透明性を確保している [0502b]。				

自己点検・評価項目	0503	適切な定員を設定し、入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	自己評価	B
評価の視点	入学定員および収容定員の適切な設定と在籍学生数を管理していますか。 【学士課程】 ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応 【修士課程、博士課程】 ・収容定員に対する在籍学生数比率			
現状説明				
0503 (1) 2021 年度の入学者比率は全体で 95% (学科ごとで 79~111%) と定員を下回った。コロナ禍で多数併願する受験生が少なく、近隣の大学の大量追加合格の影響があったと考えられる。収容定員に対する在籍学生数比率も学部全体で 97% (学科ごとで 88~104%) と定員を下回った[0503a]。しかし、2022 年度では入学者比率は全体で 112% (学科ごとで 96~120%) とほぼ定員を満たした。編入学生定員に対する編入学生数比率は学部全体で 17% (0~50%) であるが、編入学生定員は全体の 1.6%に過ぎず問題とならない。2022 年度の収容定員に対する在籍学生数比率も学部全体で 100% (学科ごとで 89~105%) とほぼ定員に回復した[0503b]。2023 年度の入学者比率は全体で 114% (学科ごとで 89~140%) とほぼ定員を満たした。2023 年度の編入学生はゼロであった。収容定員に対する在籍学生数比率は学部全体で 105% (学科ごとで 88~113%) とほぼ定員であった。しかしながら、学科ごとに定員を下回る学科専攻や大きく超過する学科があった。この原因として、コロナ禍で受験生の歩留まりの推定がやや困難であったことが考えられ、この点、入試学部選抜委員会や入学センターで検証を行っている[0503c]。				

自己点検・評価項目	0504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入れの方針(AP)に基づき、IR データも活用し、公正かつ適切に実施されているか定期的に検証を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)学生募集や入学者選抜方法の適切性について検証していますか。 ・委員会等における根拠資料に基づいた定期的な検証 (2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
0504 (1)学生募集や入学者選抜方法は大学の入学センターが過去の結果 (入試成績や出身校と入学後の成績等との相関や受験者動向) を毎年分析して決定し、これをもとに学部委員会でも検討しその適切性は確保されている。 0504 (2)学生募集および入学者選抜方法は入学センターが担当するため、学部委員会の担当は個々の入試ごとの可否ラインや出身校に応じた内申書の評価基準にかかわる検証と改善・向上になるが、検証を定期的には実施しておらず、改善・向上にかかわる年度重点目標を設定するに至っていない。				

0504 (2)学生募集に関して、2021年度は愛知県内7校の農業・食品系専門系高等学校へ教員が訪問し、学部学科専攻の特徴を説明し進学希望者を募った。特に、食品栄養科学科管理栄養科学専攻の指定校枠の働きかけを行った[0504a, pp. 15, 17, 19, 21]。さらに、範囲を岐阜県に広げ、教員による広報活動を実施している。その結果、愛知県と岐阜県下にそれぞれ1校ずつ指定校が追加された[0203d pp. 7, 9]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0503	きめ細かな指導により退学を予防することで収容定員に対する在籍学生数比率はほぼ定員通りである。
項目 No. 0504	食品栄養科学科の志願者を増加させるために農業系特に食品系の職業専門高校への訪問により、指定校が増加した。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0503	2023年度の入学者比率は全体で114%とほぼ満たしているが、学科・専攻間で差が生じている。食品系の学科の比率が低い点、さらなる取り組みが必要である。
今後の改善・向上方策	
食品系専門高校への訪問活動を活性化する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0501 APはDP及びCPを踏まえて定められ、それが適切に公表されている[0501a, 0502b]。	
0502 入学者選抜の整備・運営に関しても、各学科・専攻のAPで求める人間像を規定する水準等に整合する入試選抜方法が明示され[0501a, 0502b]、適切に実施されている。	
0503 入学者数や在籍学生数は適切に管理されている[0503 a]。在籍学生数について、学科ごとに定員を下回る学科専攻や大きく超過する学科があり、入試学部選抜委員会や入学センターで検証がなされているとのことだが[0503 c]、どのように検証されたか第三者が理解できるような記述がされておらず追加根拠資料を求めたところ提出され[0503d pp. 15, 18, 20, 22]、確認できた。	
0504 学生募集や入学者選抜方法は大学の入学センターが過去の結果を毎年分析して決定し、これをもとに学部委員会でも検討され、その適切性は確保されている。学生募集に関しては、指定校枠の働きかけ [0504a, pp. 15, 17, 19, 21]、教員による広報活動[0203d pp. 7, 9]といった取り組みは評価される。	
長所・特色	
0504 食品系専門高校への訪問や隣県の高校への広報活動に取り組みされた結果、指定校の増加、入学者比率の改善といった成果が現れている。	

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準 6 教員・教員組織

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0605	教員の年齢構成に偏りがある点 定年退職や病欠に対応する教員の負担が集中しており、このままでは当該組織の円滑な運営に支障が出る恐れが懸念された。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学園ビジョン 2021-2025 に記載の生物生命系改革にむけて、学部・研究科主任会を中心に、教員組織の状況と職階構成について検討を行い、2004 年以降、公式的に議論されてこなかった昇格昇任に関わる学部・研究科内規について、透明性を高めるための議論を開始した[0203d pp. 9, 16, 19, 21, 23]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。	自己評価	B
評価の視点	<p>(1)大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。</p> <p>(2)教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。(方針等に基づく組織編制の明確化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性 ・各学位課程の目的に即した教員配置 ・国際性、男女比 ・特定の範囲の年齢に偏ることのないバランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置 ・各組織における将来計画の設定 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授、准教授、講師または助教）の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 			
現状説明				

(1)学部専任教員数については、各学科が法令の定員を超える専任教員を確保している。しかし、一部の学科では学生数との兼ね合いで、マンパワー不足の危険があるため、とくに実習助手の採用前倒しについて申し入れるなど対応を取っている[0602a]。

(2) 教員組織の編成、教員配置については、学園ビジョン 2021-2025 に記載の生物生命系改革にむけて、2004 年以降、公式に議論されてこなかった昇格昇任に関わる学部・研究科内規について、透明性を高めるための議論を開始した[0203d pp. 9, 16, 19, 21, 23]ほか、副学長主導の応用生物学部改革検討委員会を設置した[0602b]。

国際性と男女比については、教員採用の際に特に考慮されていなかった点であるが、2022 年に行った新任教員採用については、女性教員の比率が下がらないように配慮をして人事 WG に提案するなど男女比の向上について配慮した [0602c]。

自己点検・評価項目	0603	教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。	自己評価	B
評価の視点	(1)教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。 ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定 (2)規程等に従った適切な教員人事（募集、採用、昇任等）を実施していますか。			
現状説明				
昇格については2004年に定めた学部の内規 [0603a] があるが、募集・採用に関する規定はない。募集・採用・昇格等の教員人事は、学部の発議を人事担当副学長に説明して大学の人事ワーキングに諮って承認を得た後に募集し、候補者を人事担当副学長に説明して大学の人事ワーキングに諮って承認を得た上で、学長らを含む面接を経て採用する手続きとなっている。2004年に定めた学部の内規（資料）については、職階名称の変更等が行われておらず、改善のための議論を開始したところである [0203d pp. 9, 16, 19, 21, 23]。				

自己点検・評価項目	0604	ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげていますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)FD活動を組織的に実施していますか。 (2)教員の教育活動、研究活動、社会活動等を評価し、その結果を活用していますか。			
現状説明				
(1)全学FD委員会の下に、学部FD委員会を設置して組織的にFD活動を実施している[0604a]。学部におけるFD活動については、教授会に併せて開催するなどして、良好な出席率を得ている。 (2)FD活動評価点検は学部FD活動ワーキンググループが実施して学部FD委員会が承認し、報告書を全学FD委員会に提出している。前年度の評価点検に基づいた年度重点目標を設定して全学FD委員会に提出している[0604a]。				

自己点検・評価項目	0605	教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	C
評価の視点	適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を実施し、その結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
教員組織の適切性については定年を含む退職等にもなう教員人事の機会に検討しているが、根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価は実施していない。学園ビジョン2021-2025に記載の生物生命系改革にむけて、応用生物学部改革委員会を設置、開始した状況である。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0604	学部におけるFD活動については、教授会に併せて開催するなどして、良好な出席率を得ている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0602	一部の学科では学生数との兼ね合いで、マンパワー不足の危険がある
今後の改善・向上方策	
教員組織の編成、教員配置については、学園ビジョン 2021-2025 に記載の生物生命系改革にむけて、2004 年以降、公式に議論されてこなかった昇格昇任に関わる学部・研究科内規について、透明性を高めるための議論を開始した [0203d pp. 9, 16, 19, 21, 23]ほか、副学長主導の応用生物学部改革検討委員会を設置し、議論を開始したところである。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0603	昇格については 2004 年に定めた学部内規[0603a]があるが、募集・採用に関する規定はない。
今後の改善・向上方策	
2004 年に策定された昇任昇格に関する学部内規を、現状にふさわしいものに改定する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0605	教員組織の適切性については定年を含む退職等にもなう教員人事の機会に検討しているが、根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価は実施していない
今後の改善・向上方策	
自己点検・評価で、例年低評価の項目ではあるが、学園ビジョン 2021-2025 に記載の生物生命系改革をめざす中で、透明性のある議論を進めたい。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2023 年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準 7	学生支援
------	------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	就職活動が盛んな時期には、キャリア支援課によるエントリーシートの指導を受けることが困難である。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
COVID-19 感染対策下でありながらオンラインによる対応を実施し、改善・向上に取り組んできた[0702a]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	<p>(2) 学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・ 正課外教育 ・ 留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・ 障がいのある学生に対する合理的配慮 ・ 成績不振の学生の状況把握と指導 ・ 留年者および休学者の状況把握と対応 ・ 退学希望者の状況把握と対応 <p>(4) 学生の生活に関する適切な支援を実施していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の相談に応じる体制の整備 ・ ハラスメント（アカデミック、セクシュアル、モラル等）防止のための体制の整備および啓発活動 ・ 心身の健康維持・増進および安全への取り組み <p>(5) 学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育の実施 ・ 学生のキャリア支援を行うための体制（学部との協力・連携を含む）の整備 ・ 進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 ・ キャリア支援講座などの実施 <p>(6) 【研究科のみ】学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。</p>			

	<ul style="list-style-type: none"> ・博士課程における、学識を教授するために必要な能力を培うための機会の設定または当該機会に関する情報提供 <p>(7) インターンシップを実施していますか。</p> <p>【学士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実したインターンシップの実施 <p>【修士課程、博士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施可能な体制の整備
現状説明	
<p>高等学校までの学習分野による格差をなくすために、入学後、1・2年生を対象とした化学補習の実施に加え[0702b]、入学前教育も実施している[0203d pp.9,17-18]。これら両者の取組みは「学生の能力に応じた補習教育、補充教育」及び「正課外教育」の実施に相当する。</p> <p>また、学生生活の心身の健康維持・増進および安全への取り組みにおいて、入学直後の教育として、ブラックバイト対策に関する講義を実施している[0702c]。</p> <p>なお、障がいのある学生に対する合理的配慮の取組みが2022年度から始まったが、対応が適切かどうかについては今後も情報共有を行い、学生ごとに評価してゆく必要がある[0702d p.1]。</p> <p>休学者及び退学者、留年者に対しては各学科・専攻会議だけでなく応用生物学部教授会においても、その状況等の情報共有を実施している[0503c] [0702e] [0702f]。さらに成績不振学生状況把握については、各学科・専攻会議において詳細な情報を共有し、学生支援・対応を実施している[0702d p.4]。多様な学生への対応、キャリア支援・生活基盤整備に関して、大学全体の方針に基づきつつ、学部独自の視点も生かしながら適切な学生支援活動を展開している[0102d pp.19-22]。</p> <p>2020年度から2022年度はCOVID-19の影響を大きく受けたが、上記の内容はオンライン等を利用してCOVID-19感染対策期間内にも実施し[0702a]、学生支援に取り組んできた。また保護者の方を含めた学生支援には電話による個別相談も実施してきた[0702g]。学生のキャリア支援となる企業研究については規模の縮小が継続している。今後の状況に応じて、その体制を整える必要がある。</p>	

自己点検・評価項目	0703	学生支援の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(2) 自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
<p>学生支援の適切性に関しては、前回の自己点検・評価（詳細点検）の際に課題としてあげた点を改善するよう、各学科・専攻による個別の対応に加え、学部全体としても実施している。特に、就職活動が盛んな時期には、キャリア支援課によるエントリーシートの指導を受けることが困難という課題に対して、COVID-19感染対策下でありながらオンラインによる対応を実施し、改善・向上に取り組んできた[0702a]。またこの点は教授会において定期的に就職状況を共有し、キャリア支援と連携した就職支援を実施している[0702h] [0702i]。</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0702	学生の修学において高等学校までの学習分野による格差をなくすために、正課外教育として、化学の補習講義を実施している[0702b]。
項目 No. 0702	学生生活の心身の健康維持・増進および安全への取り組みにおいて、入学直後の教育として、ブラックバイト対策に関する講義を実施している[0702c]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 702	障がいのある学生に対する合理的配慮の取組み
今後の改善・向上方策	
大学全体の方針に基づきつつ、本学部独自の視点からも学修支援、学生生活支援、キャリア支援などに取り組む [0702d p.4]。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
<p>0702 入学前教育[0203d pp.9,17-18]及び1・2年生を対象とした化学補習の実施 [0702b]により、「学生の能力に応じた補習教育、補充教育」及び「正課外教育」が実施されている。また、スタートアップセミナーにおいて学生生活の心身の健康維持・増進及び安全への取組として、ブラックバイト対策に関する講義 [0702c]や障がいのある学生に対する合理的配慮の取組みも 2022 年度より始められている [0702d pp.1]。また、休学者及び退学者、留年者に対する教授会における情報共有[0503c] [0702e] [0702f]、成績不振学生についての、各学科・専攻会議における詳細な情報共有と学生支援・対応の実施[0702d pp.4]がなされている。</p> <p>0702 COVID-19 感染対策期間内にも同様の内容をオンラインにて実施するとともに[0702a]、就職活動が盛んな時期にキャリア支援課による指導を受けることが困難という課題に対しても、オンラインによる対応を実施し、改善・向上に取り組んできた[0702a]。またこの点は教授会において定期的に就職状況を共有し、キャリア支援と連携した就職支援を実施している[0702h] [0702i]。</p> <p>0702 学生生活の心身の健康維持・増進及び安全への取組として、ブラックバイト対策の講義の実施を挙げられているが、安全への取組ではあるが、心身の健康維持・増進を含む取組としての内容が示されていないため、質問を行ったところ、追加資料 [0702k] の根拠資料が提出され、学科・専攻会議において学生情報の共有、対応が行われていることが確認できた。</p> <p>0702 COVID-19 感染対策期間内の対応として、大学の「非常事態宣言解除に向けた大学の対応について」の文書を根拠資料とされているが、学部の取組の根拠資料は示されていないため、学部としての取組内容を質問したところ、根拠資料 [0702l] の提出があり、学部重点事業計画として進路の充実の取組みがなされていることが確認できた。</p>
長所・特色
0702 入学前教育[0203d pp.9,17-18]及び1・2年生を対象とした化学補習の実施 [0702b]されており、高等学校までの学生の学習格差や能力に応じた補習教育、補充教育が行われていることが伺える。
留意点
<p>*各項に留意点レベルを記入</p> <p>【A】・・・緊急の改善を要する事項</p> <p>【B】・・・検討を要する事項</p>
特になし

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
0702	K	2022 年度第 7 回管理栄養学専攻会議議事録	●
0702	l	2022 年度第 4 回応用生物学部教授会・第 5 回応用生物学研究科委員会資料(pp.26-26 抜粋)	●

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
 ●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
 △：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	応用生物学部
--------	--------

基準 8	教育研究等環境
------	---------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0806	学部スペース検討 WG 委員会の各委員が学科教員すべてに丁寧に意見を聴取して、さらに効率的なスペース利用法を検討すべきである。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
各学科教員から構成される学部スペース検討 WG 委員会を開催し、スペース利用方法についての課題を各学科に持ち帰って議論を行ない、その議論に基づき、学部管轄の管轄エリアの整備、用途変更、転用、名称変更、管理者の変更が実施された[0802b, c, d]。食品プラントのより有効な利用のため食品プラント再生計画 WG を立ち上げ現場視察をおこなった[0802e, f]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0802	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。			
現状説明				
学部・研究科の教育研究活動に必要な整備については、教育課程の特徴、学生数、教育法に応じて施設・設備の充実を図るために、共通機器委員会、学生実験委員会、先端教育環境整備充実事業運営委員会、学部スペース検討 WG 委員会等と協議し、具体的な整備計画を立案・実施している[0802a]。学部管轄の管轄エリアの整備、用途変更、転用、名称変更、管理者の変更[0802b, c, d]。食品プラントのより有効な利用のため食品プラント再生計画 WG を立ち上げ現場視察をおこなった[0802e, f]。				

自己点検・評価項目	0805	研究倫理を遵守するために必要な措置を講じ、適切に対応していますか。	自己評価	A
評価の視点	研究倫理、研究活動の不正防止に関する取り組みをしていますか。 <ul style="list-style-type: none"> 研究倫理、研究活動に関する規程の整備 教員および学生における研究倫理確立のための機会等の提供（コンプライアンス教育および研究倫理教育の定期的な実施等） 研究倫理に関する審査委員会等の設置 			

現状説明				
研究倫理を遵守するために、研究活動の不正防止を徹底すべく啓発ポスターによる学生周知を進めた[0805a]。教員全員に対して資料による研究倫理教育およびコンプライアンス教育を行なった。教員全員に対する eAPRIN 受講の徹底を促した[0805b]。				

自己点検・評価項目	0806	教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を実施し、その結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
教育研究環境の適切性については、共通機器委員会、学生実験委員会、先端教育環境整備充実事業運営委員会、学部スペース検討WG委員会等の実施により定期的な自己点検・評価を実施し、改善・向上に取り組んでいる[0802a, b, c, d, e, f]。共通機器室の新設[0802b]、次世代DNAシーケンサーを共通機器として認定[0806a]。食品プラントのより有効な利用のため食品プラント再生計画WGを立ち上げ現場視察をおこなった[0802e, f]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0806	食品プラント再生計画WGの立ち上げと現場視察

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0802	学部内における利用頻度の低いスペースのさらなる調査と効率的な再配分への取り組み
今後の改善・向上方策	
教員全員に対するスペース利用状況の聞き取り調査と視察。共通機器委員会、学部スペース検討WG委員会等での議論。試料調整室や退職教員の実験室などの、用途変更、転用、名称変更、管理者の変更を推し進める。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0802	大学に対するスペース拡大の要望
今後の改善・向上方策	
正確な現状把握と具体的な提案の計画し要望する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0805	研究倫理教育の強化
今後の改善・向上方策	
教員、学生に対して研究不正防止のための研究倫理教育に関するセミナーの開催や各種説明会での啓発アナウンス、学部講義内容への導入を実施する。研究倫理委員会での議論を教員に広く周知し議論する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織 応用生物学部

基準 9 社会連携・社会貢献

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0902	ペストコントロールは始まったばかりで、今後持続性と発展性を更に模索してゆくべきである。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2017年に愛知県ペストコントロール協会との協定を締結して以降、話題のトピックを織り交ぜながら業界紹介を行う「ペストコントロールカレッジ」は、毎年継続して計6回を重ねてきた[0902a]。加えて、今後の持続性、発展性のため学生が協会の活動に参加して当事者の立場から業界を理解する「ムシの日イベント」（産学連携普及活動、2019年開催したが感染症他のため中止、2023年6月に再開予定）[0902b]、「HACCP研修」（食品企業対象の衛生講習、2023年3月に初開催）[0902c]を新たに実施している。外来種や病原体の防疫、食の安全対策など、社会的ニーズがますます大きくなっていることから、協会および大学共に連携活動を継続する意志を共有している。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0902	春日井市健康救急フェスティバルへの参加により得られる市民の反応をまとめ公開していくべきである。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
春日井市健康救急フェスティバル参加者の反応等については、春日井市公式動画チャンネル「市政だより 2022 健康救急フェスティバル」で公開している[0902d]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0902	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。	自己評価	S
評価の視点	(2)社会連携・社会貢献に関する教育研究活動を組織的に推進していますか。 ・国際交流・地域交流事業への参加等			
現状説明				
応用生物学部では、様々な国外、国内の主体と社会連携・社会貢献を行っている。 国際交流事業1. 絶滅危惧種ヨウム保全プロジェクト：本学部が中心となり独立行政法人国際協力機構（JICA）の草の根技術協力事業をウガンダ野生生物教育センター（UWEC）と協力し、絶滅危惧種ヨウム（オウムの一種）保全プロジェクトを実施している。2022年4月に密輸業者から押収された約120羽のヨウムを保護するレスキューケージを建設し、UWECに譲渡した。本プロジェクトは、2025年までの4年間の予定で実施され、ヨウム保全に関する技術移転を進めていく[0902e]。				

国際交流事業 2. サボテンの産業振興：2021年には農林水産省研究開発プラットフォーム「サボテン等多肉植物の潜在能力発掘と活用推進プラットフォーム」を設立し[0902f]、全国的なサボテンの事業化と社会実装を推進している（2023年3月現在、14の会員企業）。会員企業との活動例としては、サボテンを活用したカンボジア地雷原復興事業などを進め[0902g]、農林水産省広報紙（aff2022年9月号「食と地域を支える研究者」）[0902h]にて研究活動が紹介されている。

地域交流事業 1. 環境保全教育研究センターにおける環境教育・研究：中部大学恵那研修センター内に環境保全教育研究センターを2021年度に設立し、岐阜県東濃地方固有の希少な野生生物の保全だけでなく、自然環境と結びついた里山の伝統文化の保存、地域エミッションを目指して本学の学生と地域住民の環境教育・研究を進めている[0902i]。2021年度より国道19号線拡張工事予定地に生育する絶滅危惧植物を同センター内のレフュージア植物園に受け入れ、2022年度には一般市民、高校生を対象とした自然観察会（3回）を実施している[0902j]。

地域交流事業 2. 森の健康診断：本学研修センターを拠点として、土岐川庄内川流域市民や源流域の行政や市民団体と協働し、2015年より12月第1土日に新・森の健康診断を実施している。本活動は文科省COC継続事業の一環として位置づけられ、地域の次世代リーダーとして活躍できる人材育成を行なっている。これら参加学生の一部については、COC事業に基づく学長認定資格である「地域創成メディエーター」に3年間で合計12名が認定されている[0902k]。これらの活動は全てCOC運営委員会の中で報告され、コロナ禍でも最善を尽くした活動がなされ、学生の資質向上に貢献していると評価されている[0902l]。

地域交流事業 3. ペストコントロールカレッジ：2020年、2021年は感染症対策としてオンライン開催、2022年は対面開催、毎年継続して実施している[0902a]。ペストコントロールカレッジ開催にあたり、毎年秋に開催される愛知県ペストコントロール協会総務委員会にて、本学教員と県協会理事が集まり、開催時期、話題内容と演者設定について話し合われる。参加学生あるいは参加企業のレポートが協会にフィードバックされ、次回開催の指針とする。

地域交流事業 4. 春日井市健康救急フェスティバル：毎年、春日井市総合体育館で健康救急フェスティバルに参加し、春日井市民に食に関する啓発活動を学生が中心となって企画・運営している。2020年度、2021年度はCOVID-19の感染対策のためweb開催だったが、2022年度は9月4日に学生12名が企画・運営した[0902m]。これらの活動を通じて、学生に地域創成メディエーターの取得を奨励し[0902n]、COC継続事業成果報告書で公表している[0902o]。

地域交流事業 5. サボテンの産業振興：2017年より春日井商工会議所や市内企業とサボテンの産業振興を目的とした地域連携を進めている。2020年～2022年度には地域飲食店と連携したサボテンレシピや製品開発を行い、春日井サボテンの魅力発信への協力・春日井市のサボテン振興施策への事業提案又は提言を行っている[0902p]。

地域交流事業 6. 絶滅危惧植物シデコブシ保全事業：春日井市自然環境の保全を推進する条例によって指定希少植物に指定されているシデコブシ（環境省準絶滅危惧植物）の保全活動を「春日井市みどりのまちづくりグループ」と協働で2007年から実施し、2023年6月に春日井市民向けPR事業として市民講座を開催し、最終的に県天然記念物指定を目指す[0902q]。

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0902	国際交流 1. 絶滅危惧種ヨウム保全プロジェクト：ワシントン条約で商取引が禁止されているヨウムの保護、増殖のためのモデルケース構築支援に貢献している[0902e]。
項目 No. 0902	国際交流事業 2. サボテンの産業振興、地域交流事業 5. サボテンの産業振興：2021年より、国内企業（IOS 株式会社）およびカンボジア政府機関（カンボジア地雷対策センター）と共に、サボテンを活用した地雷原復興事業を進めている[0902g]。サボテンという全国的にも珍しい地域資源に注目した地域連携活動を展開し、それらの取組が NHK や全国紙において多数報道されている[0902r][0902s]。
項目 No. 0902	地域交流事業 1. 環境保全教育研究センターにおける環境教育・研究：環境保全教育研究センターは、岐阜県恵那地域だけでなく、中部圏全域の自然環境の固有性、希少性の学の間、希少生物の受け入れ先として貢献している[0902j]。
項目 No. 0902	地域交流事業 2. 森の健康診断：恵那市および流域の市民や行政の要望により開始され、直接的な地域への貢献が期待された事業である。SDGs の目標 11、12、15 を意識した教育活動である。活動

	開始後、環境生物科学科からは、林業界に毎年1名程度が就職しており、業界への直接的な貢献がなされている。文科省COC事業の継続事業として、地域に貢献する人材を組織的に育て輩出する事業である[09021]。
項目 No. 0902	地域交流事業 3. ペストコントロールカレッジ：大学の基礎研究、学会活動（日本ペストロジー学会、The Federation of Asian and Oceania Pest Managers Associations）、現場での実践をうまくリンクさせ、相乗的な活性化を見込める仕組みである。全国47都道府県協会、所属会員計934社を擁する日本ペストコントロール協会の中でも、大学との連携活動は愛知県のみであり、様々な仕組みや活動は協会ニュース等で紹介され注目されている。
項目 No. 0902	地域交流事業 4. 春日井市健康救急フェスティバル：Instagramで活動状況を公表し、学生募集に活用している[0902n]。COC継続事業に基づく学生による学内資格の取得の推進している[0902o]。
項目 No. 0902	地域交流事業 6. 絶滅危惧植物シデコブシ保全事業：2007年から実施されてきた春日井市西尾町のシデコブシ群落保全活動を、最終的に県天然記念物に指定することによって活動成果を担保する先駆的な事業であることから、今後の春日井市内における希少生物の保全活動の模範として期待できる[0902q]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0902	国際交流 1. 絶滅危惧種ヨウム保全プロジェクト
今後の改善・向上方策	
・連携活動を継続することが何よりも重要であり、新たな連携が可能な学部内外の研究者を募っていく。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0902	国際交流事業 2. サボテンの産業振興、地域交流事業 5. サボテンの産業振興
今後の改善・向上方策	
・サボテンの生産と利用における最大の課題は、日本国内でサボテンが「作物」や「食べ物」として消費者に広く認識されていないことである。その結果として、生産者の増加、利用の推進、事業化における大きな壁となっている。これを克服するためには、サボテンの強みとしての高温耐性、高い水利用率、病害耐性、化学農薬の散布不要、施肥不要、栄養繁殖、食品機能特性等に関する学術的根拠と利点を示すことが必要である。現時点での改善・向上への取り組みとして、応用生物学部内に設立した「サボテン科学研究会」を中心にした研究の実施および大型研究費への申請、またプラットフォーム会員企業と事業化推進や広報活動が必要である。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0902	地域交流事業 1. 環境保全教育研究センターにおける環境教育・研究
今後の改善・向上方策	
本センターを広く地域に認知してもらうため、自然観察会講習会等の受け入れ、開催頻度を増やす。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0902	地域交流事業 2. 森の健康診断
今後の改善・向上方策	
森林の状況をより深く理解させるための現地実習の機会を増やせるとよい。2022年度に新規実施した「狩猟免許取得のための講習会」について、現地実習を増やす方向で検討中である。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0902	地域交流事業 3. ペストコントロールカレッジ
今後の改善・向上方策	

日本におけるペストコントロールの職業としての認知度は、先進国およびアジア諸国の中でも後れを取っており、オペレーターの各資格を国家資格としてゆくことが連携の大きな目標である。連携活動を継続することが何よりも重要であり、新たな連携が可能な学部内外の研究者を募っていく。企業から大学への寄附金等を募り、共同研究および人材育成をととして業界の発展を図る。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0902	地域交流事業 4. 春日井市健康救急フェスティバル：
今後の改善・向上方策	
学生の認知度の向上のため、学期はじめのオリエンテーション等で学生に対して、地域貢献活動を通じて学内資格を取得するよう推進している。市民に対してのアンケートは収集しているが、内容をまとめて発信する方法を検討する。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0902	地域交流事業 6. 絶滅危惧植物シデコブシ保全事業：
今後の改善・向上方策	
春日井市において市民向け PR（シンポジウム、講座等）を行い、活動内容、意義についての周知を図っていく。本学学生ボランティア団体との協働研究体制を構築し、新たな連携が可能な学部内外の研究者を募っていく。県の天然記念物指定を目指す。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0902 応用生物学部では、絶滅危惧種ヨウム保全プロジェクト、サポテンの産業振興の国際交流事業や、地域交流事業である環境教育・研究として、中部大学恵那研修センター内に環境保全教育研究センターの活動及びペストコントロールカレッジの実施など様々な国外、国内の主体と社会連携・社会貢献が行われている[0902f] [0902g] [0902h]。国際交流事業では、2021年には農林水産省研究開発プラットフォーム「サポテン等多肉植物の潜在能力発掘と活用推進プラットフォーム」を設立し、全国的なサポテンの事業化と社会実装を推進し、会員企業との活動例として、サポテンを活用したカンボジア地雷原復興事業などが進められている。地域交流事業では、希少な野生生物の保全だけでなく、自然環境と結びついた里山の伝統文化の保存、地域エミッションを目指して本学の学生と地域住民の環境教育・研究を進められる[0902i]など、地域の次世代リーダーとして活躍できる人材育成をも担う活動となっている。これら参加学生の一部は、COC 事業に基づく学長認定資格である「地域創成メディエーター」に3年間で合計12名が認定された [0902k]。ペストコントロールカレッジでは、毎年秋に開催される愛知県ペストコントロール協会総務委員会にて、本学教員が県協会理事とともに開催の企画に関わり、参加学生や参加企業のレポートが次回開催の指針となるなど中心的な役割を果たしている。その他、春日井市健康救急フェスティバルへの参加、そこでの学生による春日井市民に食に関する啓発活動 [0902m]が行われ、これらの活動を通じて、学生に地域創成メディエーターの取得を奨励し[0902n]、COC 継続事業成果報告書で公表している[0902o]。以上のように、様々な活動や取組が実施され、地域貢献、地域連携が進められ、教育研究成果を適切に社会に還元されていると評価できる。	
長所・特色	
0902 応用生物学部では、絶滅危惧種ヨウム保全プロジェクト、サポテンの産業振興の国際交流事業や、地域交流事業である環境教育・研究として、中部大学恵那研修センター内に環境保全教育研究センターの活動及びペストコントロールカレッジの実施など様々な国外、国内の主体と社会連携・社会貢献が行われ、[0902f] [0902g] [0902h]、教育研究成果を適切に社会に還元されていると評価できる。活動を推進する中で、具体的な課題が挙げられているが、課題解決に向けて活動を継続し、今後も学生の育成や地域貢献に努めていただきたい。	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項	

【B】・・・検討を要する事項

特になし

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
		追加資料なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
 ●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
 △：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織 応用生物学部

基準 11 大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	必要な常置委員会の設置
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
主任会において、学部および研究科のための12の常置委員会を設置し、その内の9つは学部のための常置委員会である [1120a]。各常置委員会の規程または内規を設置済みである（以下参照）。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明	教授会は、規程[1120b]に基づき議長の招集により開催し、議事録は事務局で素案を作成し教授会での決裁を経て本部へ提出している[0702e], [0702f], [1120c]。 教授会の議事は、あらかじめ同規程に位置づけられた主任会において、その申し合わせ[1120a]に基づき事前協議を実施している。主任会は、教授会と同様に議長の招集により開催し[1120a]、議事録は事務局で素案を作成し主任会での決裁を経て事務局で保管している[1120d], [1120e], [0203d]。 主任会には常置委員会を含む専門委員会を置くことができ、その委員会により固有事項の処理及び主任会より付託された事項を審議し、主任会・教授会へ報告する[1120a]。			

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1120	教授会における議事および資料は、PDF で作成し構成員にデータで配布し、紙の節減を図っている。議場においては、対面の会議では議長がPC により資料をプロジェクター投影し、ZOOM 会議の場合では ZOOM の共有機能を使用して会議出席者へ資料を提示している。 コロナ感染症の発生以降、会議の大半が対面から ZOOM 会議へ移行したことに伴い、会議進行における資料提示方法を工夫（議事レジメと資料データをハイパーリンクで結合）して、議長の会議進行の円滑化を図っている。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1120	常置委員会の規程の整備
今後の改善・向上方策	
主任会では12の常置委員会が設置され [1120a]、その内10の委員会（①応用生物学部スペース検討委員会、②応用生物学部共通機器委員会、③応用生物学部学生実験委員会、④応用生物学部・研究科FD推進委員会、⑤応用生物学部教務委員会、⑥応用生物学研究科教務委員会、⑨応用生物学部入学者選抜委員会、⑩応用生物学研究科大学院入試委員会、⑪応用生物学部学生募集委員会、⑫応用生物学部組換えDNA実験安全委員会）に規程を設置し、2つの委員会（⑦応用生物学部自己点検・評価委員会、⑧応用生物学研究科自己点検・評価委員会）に内規を設置した[1120f]。今後、必要に応じてその規程・内規の改訂を行っていく。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート 根拠資料一覧

組織名

応用生物学部

基準 (シートNo.)	根拠資料No.		根拠資料の名称	提出 区分
	項目No.	記号		
1. 理念・目的 (NF0101)	0102	a	2020年度(対象年度:18~19年度)自己点検・評価シート(応用生物学部) https://www.chubu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/8/2022/05/about-facts-figures-evaluate-self-evaluation-2019report-11.pdf	○
	0102	b	2020年度(対象年度:2019年度)ピアレビュー報告書(案)(応用生物学部) https://www.chubu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/8/2022/05/facts-figures-evaluate-self-evaluation-2019report-12.pdf	○
	0102	c	学生便覧(2020年度) https://www2.chubu.ac.jp/current_students/curriculum_section/pdf/bi_nran_under_2020.pdf	○
	0102	d	応用生物学部パンフレット	○
	0102	e	2020年度第4回応用生物学部教授会第5回応用生物学研究科委員会資料(抜粋)	●
	0102	f	2022年度第8回応用生物学部教授会・第10回応用生物学研究科委員会資料(抜粋)	●
2. 内部質保証 (NF0201)	0203	a	2021年度応用生物学部自己点検・評価シート	○
	0203	b	2022年度応用生物学部自己点検・評価シート	○
	0203	c	2020年度中部大学に対する大学評価結果 https://www.chubu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/8/2022/05/evaluation-evaluation-2020-01.pdf	○
	0203	d	2022年度応用生物学部・研究科主任会議事録	●
4. 教育課程・学習成果(1) (NF0401)	0401	a	3つのポリシー 応用生物学部 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/biology/	○
	0401	b	3つのポリシー 応用生物学部 応用生物化学科 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/biochemistry/	○
	0401	c	3つのポリシー 応用生物学部 環境生物科学科 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/environment/	○
	0401	d	3つのポリシー 応用生物学部 食品栄養科学科 食品栄養科学専攻 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/food-nutrition/	○
	0401	e	3つのポリシー 応用生物学部 食品栄養科学科 管理栄養科学専攻 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/health-nutrition/	○
	0402	a	FR ディプロマ・ポリシー	○
	0402	b	FR カリキュラム・ポリシー	○
	0402	c	FR カリキュラム・マップ	○
	0402	d	FR カリキュラムツリー	○
	0403	a	2019年度春学期 学生による授業評価各種回答率 https://quest.chubu.ac.jp/LessonEval/img/answer201901.pdf	○
	0403	b	2019年度秋学期 学生による授業評価各種回答率 https://quest.chubu.ac.jp/LessonEval/img/answer201902.pdf	○
	0403	c	2022年度春学期 学生による授業評価各種回答率 https://quest.chubu.ac.jp/LessonEval/img/answer202201.pdf	○
	0403	d	2022年度秋学期 学生による授業評価各種回答率 https://quest.chubu.ac.jp/LessonEval/img/answer202202.pdf	○
	0403	e	中部大学応用生物学部応用生物化学科 カリキュラムマップ(2016年度入学以降) https://www.chubu.ac.jp/documents/facts-figures/curriculum-map/5lfr.pdf	○

(様式1-4)

	0403	f	中部大学応用生物学部環境生物科学科 カリキュラムマップ (2020年度入学以降) https://www.chubu.ac.jp/documents/facts-figures/curriculum-map/52fs.pdf	○
	0403	g	中部大学応用生物学部食品栄養科学科/食品栄養科学専攻 カリキュラムマップ (2020年度入学以降) https://www.chubu.ac.jp/documents/facts-figures/curriculum-map/53ft1.pdf	○
	0403	h	中部大学応用生物学部 食品栄養科学科 管理栄養科学専攻 カリキュラムマップ (2018年度入学) https://www.chubu.ac.jp/documents/facts-figures/curriculum-map/54ft2.pdf	○
	0403	i	20201203学部教務委員会議事録	●
	0403	j	20210324学部教務委員会議事録	●
	0403	k	2023年度第1回教務委員会資料	●
	0403	l	CPメール審議1	●
	0403	m	CPメール審議2	●
	0403	n	CPメール審議3	●
	0403	o	DPメール審議1	●
	0403	p	DPメール審議2	●
4. 教育課程・学習成果(2) (NF0402)	0404	a	学生便覧 (2022年度) https://www2.chubu.ac.jp/current_students/curriculum_section/pdf/bi_nran_under_2022.pdf	○
	0404	b	中部大学シラバス検索 https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/syllabus.html	○
	0404	c	魅力ある授業づくりのために https://quest.chubu.ac.jp/LessonEval/L001VIEW.do	○
	0404	d	【重要】シラバス記載内容における第三者点検実施について	●
	0404	e	シラバス スタートアップセミナー (応用生物化学科) https://tora-net.sti.chubu.ac.jp/portal/slbssbdr.do?value(risyunen)=2023&value(emekikn)=1&value(kougicd)=11488&value(crclumcd)=01000000002016	○
	0404	f	2023年度春学期応用生物学部履修指針	○
	0404	g	2022年度第9回教務委員会資料	●
	0405	a	2023年度第1回応用生物学部教務委員会議事録	●
	0405	b	2021年度第3回学部教務委員会議事録	●
	0405	c	2021年度第9回学部教務委員会議事録	●
4. 教育課程・学習成果(3) (NF0403)	0406	a	2022年度第3回食品栄養科学専攻 専攻会議議事録	●
	0406	b	2022年度第10回食品栄養科学専攻 専攻会議議事録	●
	0407	a	2022年度第2回学部教務委員会議事録	●
	0407	b	学生GPA 個人成績 (秘匿情報)	△
	0407	c	2022年度第4回食品栄養科学専攻 専攻会議議事録	●
	0407	d	2022年度第7回学部教務委員会議事録	●
	0407	e	「学びに関する調査」結果に基づくワークショップ 応用生物学部資料	○
	0407	f	2022年度第7回食品栄養科学専攻 専攻会議議事録	●
5. 学生の受け入れ (NF0501)	0501	a	情報公表 ホーム>学びでみる中部大学>3つのポリシー>3つのポリシー応用生物学部 https://www3.chubu.ac.jp/facts_figures/study/3policy/3p_biology/	○
	0502	a	情報公表 ホーム>学びでみる中部大学>3つのポリシー>3つのポリシー各学科・専攻 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/biochemistry/ https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/environment/ https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/food-nutrition/ https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/health-nutrition/	○
	0502	b	ホーム>入試情報>入試結果 2020-2022 https://www.chubu.ac.jp/admissions/entrance-exams/result/	○
	0503	a	入試結果2021 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/data/data-2021/	○

(様式1-4)

	0503	b	入試結果2022 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/data/data-2022/	○
	0503	c	2022年度第13回応用生物学部教授会議事録	●
	0503	d	2022年度応用生物学部・研究科主任会議事録	●
	0504	a	2021年度応用生物学部・研究科主任会議事録	●
	0504	b	中部大学学科紹介動画 https://ac-chubu.jp/web-oc/department_video/	○
6. 教員・教員組織 (NF0601)	0602	a	上申：助手採用 理由書_学長宛	○
	0602	b	学園ビジョン2021-2025実行計画進捗状況(2022年度)評価指標・担当表	○
	0602	c	定員現員表2022年度-2023年度	○
	0603	a	昇格・昇任の判定基準 (改正)	○
	0604	a	2022FD活動推進計画書	○
7. 学生支援 (NF0701)	0702	a	2020年度第2回応用生物学部教授会・応用生物学研究科委員会資料 (抜粋)	●
	0702	b	2021年度第2回応用生物学部教授会・応用生物学研究科委員会資料 (抜粋)	●
	0702	c	2020-2022年度スタートアップセミナーシラバス (管理栄養科学専攻)	○
	0702	d	2023年度第1回応用生物化学科学科会議資料	●
	0702	e	2020年度応用生物学部教授会議事録	●
	0702	f	2021年度応用生物学部教授会議事録	●
	0702	g	2021年度第1回応用生物学部教授会・応用生物学研究科委員会資料 (抜粋)	●
	0702	h	2022年度第4回応用生物学部教授会・第5回応用生物学研究科委員会資料 (抜粋)	●
	0702	i	2022年度第10回応用生物学部教授会・第12回応用生物学研究科委員会資料 (抜粋)	●
	0702	k	2022年度第7回管理栄養科学専攻会議事録	●
	0702	l	2022年度第4回応用生物学部教授会・第5回応用生物学研究科委員会資料 (pp. 25-26抜粋)	●
8. 教育研究等環境 (NF0801)	0802	a	2022年度応用生物学部教授会議事録 第13回	●
	0802	b	2021年度応用生物学部教授会議事録 第6回	●
	0802	c	2021年度応用生物学部教授会議事録 第9回	●
	0802	d	2021年度応用生物学部教授会議事録 第13回	●
	0802	e	2020年度応用生物学部教授会議事録 第4回	●
	0802	f	2020年度応用生物学部教授会議事録 第5回	●
	0805	a	2021年度応用生物学部教授会議事録 第7回	●
	0805	b	2022年度応用生物学部教授会議事録 第7回	●
	0806	a	2021年度応用生物学部教授会議事録 第2回	●
	0902	a	ペストコントロール チラシ	○
	0902	b	ムシの日イベント チラシ	○
	0902	c	HACCP研修 チラシ	○
	0902	d	春日井市公式動画チャンネル「市政だより2022健康救急フェスティバル」 https://www.youtube.com/watch?v=fa0ISC5mF4U	○
	0902	e	中部大学 ホーム>お知らせ https://www.chubu.ac.jp/news/10136/	○
	0902	f	サボテン・多肉植物活用プラットホーム https://sites.google.com/view/j-cactus-succulent-research	○
	0902	g	東京新聞 (2022年11月28日) https://www.tokyo-np.co.jp/article/216309	○
	0902	h	農林水産省 aff2022年9月号「食と地域を支える研究者」 https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/2209/spel_04.html#main_content	○
	0902	i	環境保全教育研究センター パンフ	○
	0902	j	中部大学 ホーム>自然観察会募集チラシ https://www.chubu.ac.jp/news/wp-content/uploads/sites/3/2022/09/ena-nature-observation1.pdf	○

(様式1-4)

9. 社会連携・社会貢献 (NF0901)	0902	k	2020～2022（令和2～4）年度文部科学省「地（知）の拠点 継続事業」成果報告書 https://www.chubu.ac.jp/community-extension/wp-content/uploads/sites/17/2022/04/coc-report-2020.pdf https://www.chubu.ac.jp/community-extension/wp-content/uploads/sites/17/2022/04/coc-report-2021.pdf https://www.chubu.ac.jp/community-extension/wp-content/uploads/sites/17/2023/03/coc-report-2022.pdf	○
	0902	l	令和2～4年度 第8回COC事業 内部評価委員会 議事メモ	○
	0902	m	2022健康救急フェスティバル チラシ	○
	0902	n	地域創成メディエーター インスタグラム https://instagram.com/p/CowN-41S6E7/	○
	0902	o	2022（令和4）年度文部科学省「地（知）の拠点 継続事業」成果報告書 https://www.chubu.ac.jp/community-extension/wp-content/uploads/sites/17/2023/03/coc-report-2022.pdf	○
	0902	p	春日井地域みっちゃく生活情報雑誌 サボテンレシピ開発	○
	0902	q	中日新聞 わが街ぶらり探訪（2022年4月6日朝刊）	○
	0902	r	NHK報道（サボテンが食料危機の救世主） https://www3.nhk.or.jp/news/special/sakusakukeizai/20220708/505/	○
	0902	s	新聞報道（日刊工業新聞2022年2月10日、毎日新聞2022年11月7日）	○
	11. 大学独自の評価項目 (NF1101)	1120	a	応用生物学部・研究科主任会運営申し合わせ
1120		b	中部大学応用生物学部教授会規程	○
1120		c	2022年度応用生物学部教授会議事録	●
1120		d	2020年度応用生物学部主任会議事録	●
1120		e	2021年度応用生物学部主任会議事録	●
1120		f	応用生物学部・研究科常置委員会規程等	△

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管